

令和元年度
決算説明資料

令和2年10月8日
防災危機管理局

目 次

	頁
1 「名古屋市における備蓄物資及び指定避難所資機材 ガイドブック」について……………	1
2 令和元年度に購入した災害救助用物資等について……………	2
3 使い捨て哺乳瓶の備蓄について……………	4
4 津波避難ビルの指定状況について……………	4
5 指定避難所へのテレビの配備について……………	5
6 帰宅困難者対策に関する訓練について……………	6
7 金山駅周辺地区における帰宅困難者等の推計について……………	8
8 地区防災カルテを活用した防災活動の取り組み学区数について・	9
9 宿泊型訓練の実施状況について……………	10
10 感震ブレーカー設置助成に係る実績の推移について……………	11
11 東日本大震災における被災地への職員派遣について……………	12
12 東日本大震災の被災地支援に係る還元の取り組みについて……………	13
13 陸前高田市及び気仙沼市への人的支援等に係る被災地域支援費 の執行状況について……………	14

1 「名古屋市における備蓄物資及び指定避難所資機材ガイドブック」について

区 分	内 容
主な掲載内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定避難所に配備している備蓄物資及び資機材一覧 ・ 指定避難所以外に配備している備蓄物資及び資機材一覧 ・ 災害発生時における物資の確保の考え方 ・ 資機材の使い方
作成時期	令和2年3月
配備場所	指定避難所

(参 考) 令和2年度以降に実施

周知方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市公式ウェブサイトに掲載 ・ 指定避難所開設・運営訓練等での啓発
------	---

2 令和元年度に購入した災害救助用物資等について

区 分	品 目	購 入 数
食 糧	ビスケット	238,100食
	アルファ化米	224,450食
	粉ミルク	6,000箱
	粉ミルク (アレルギー対応)	136缶
飲料水	飲料水	273,936本
生活必需品	毛 布	16,950枚
	子ども用紙おむつ	23,242枚
	大人用紙おむつ	8,134枚
	生理用品	29,942枚
	使い捨て哺乳瓶	6,720本

決 算 額	令和元年度末 備 蓄 数	備蓄計画数
17,228,916円	907,600食	936,500食
30,826,710円	777,550食	801,000食
2,663,280円	6,000箱	6,000箱
405,338円	136缶	136缶
12,121,009円	442,008本	593,208本
15,669,936円	343,650枚	343,650枚
495,024円	115,956枚	115,956枚
630,720円	40,588枚	40,588枚
277,644円	149,644枚	149,644枚
1,589,280円	6,720本	6,720本

3 使い捨て哺乳瓶の備蓄について

区 分	内 容
目 的	災害発生直後の混乱期など、哺乳瓶を洗浄・消毒することが困難な場合などに、それらの作業を省き、迅速にミルクを提供する。
対 象	概ね5ヶ月児まで
数 量	6, 720本
配 備 場 所	区役所・支所及び備蓄倉庫

4 津波避難ビルの指定状況について

区 分	平成30年度	令和元年度
指 定 数	909施設	908施設
避難可能人数	871, 180人	869, 323人

(注) 各年度3月31日現在

5 指定避難所へのテレビの配備について

(1) 趣旨

- ・災害発生からの時間経過に伴い、刻一刻と変化する災害情報等を発災時にリアルタイムで視覚的に提供することで、避難者に適切な避難行動を促す。
- ・避難生活が中長期に及ぶ場合に避難者へ生活再建支援情報等を提供する。

(2) 配備場所

市立小中学校等 376か所

(3) 内訳

区 分	決 算 額
テレビ購入費	11,492,064 円
室内用アンテナ等備品購入費	3,539,798
非常用電池購入費	49,259,760
配送設定業務 (テレビ等)	5,356,800
配送業務 (非常用電池)	1,595,000
合 計	71,243,422

6 帰宅困難者対策に関する訓練について

(1) 名古屋駅周辺地区

ア 概要

区 分	内 容
実施時期	令和元年10月20日
場 所	タワーズガーデン～愛知大学名古屋キャンパス
対 象	名古屋駅周辺地区エリア防災検討会、愛知大学
目 的	退避施設への誘導及び帰宅困難来訪者の受入行程を確認する実動訓練を通じ、各退避施設における運営体制の充実を図る。

イ 実施結果

区 分	内 容
参加人数	29人
参加者の 主な意見	<ul style="list-style-type: none">・継続的に行いたい。・帰宅困難来訪者を受け入れる際の課題を感じた。・収容人員が上限に達した際その他施設の案内や、市と退避施設管理者間での情報伝達についての訓練を行う必要性を感じた。

(注) 帰宅困難来訪者とは、帰宅困難者のうち、滞在者で勤務先・通学先の建築物が倒壊の恐れがある等滞り場所を確保できなかった者及び来訪者

(2) 金山駅周辺地区

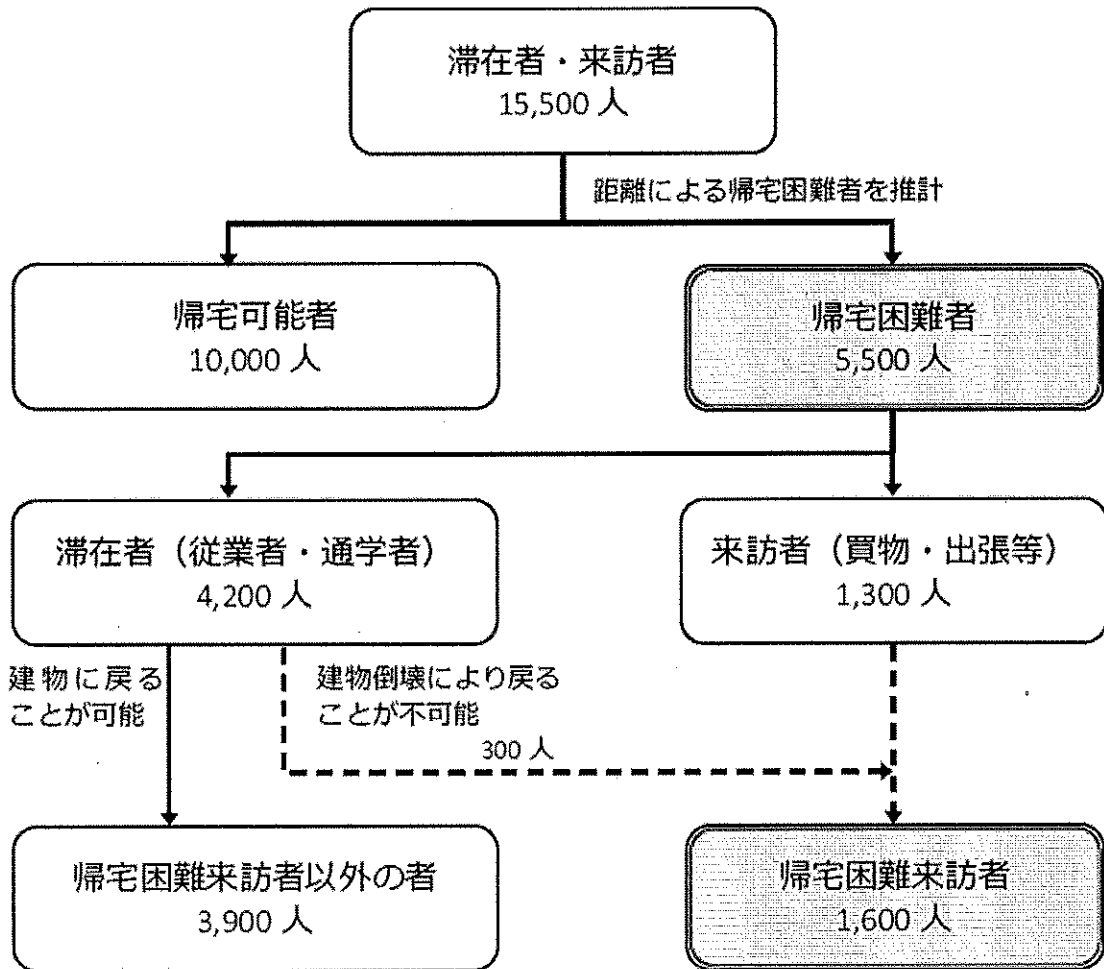
ア 概要

区 分	内 容
実施時期	令和元年11月25日
場 所	金山駅～イオンモール熱田
対 象	金山駅周辺地区帰宅困難者対策協議会、イオンモール熱田
目 的	退避施設への誘導及び帰宅困難来訪者の受入行程を確認する実動訓練を通じ、課題等の共有を図る。

イ 実施結果

区 分	内 容
参加人数	72人
参加者の 主な意見	<ul style="list-style-type: none">・継続的に行いたい。・異なる時間帯での訓練の実施も検討して欲しい。・参加者の拡大を検討して欲しい。

7 金山駅周辺地区における帰宅困難者等の推計について



- (注) 1 帰宅困難者等は、平日午前11時時点の推計
 2 帰宅困難来訪者とは、帰宅困難者のうち、滞在者で勤務先・通学先の建築物が倒壊の恐れがある等滞在場所を確保できなかった者及び来訪者

8 地区防災カルテを活用した防災活動の取り組み学区数について

区 分	総 学 区 数	平成30年度	令和元年度
千種区	15 学区	— 学区	1 学区
東 区	9	9	9
北 区	19	—	2
西 区	19	—	1
中村区	18	—	1
中 区	11	—	2
昭和区	11	—	2
瑞穂区	11	—	1
熱田区	7	—	1
中川区	24	—	10
港 区	20	—	20
南 区	18	18	18
守山区	20	—	1
緑 区	28	10	20
名東区	19	—	1
天白区	17	—	1
合 計	266	37	91

9 宿泊型訓練の実施状況について

区 分	平成30年度		令和元年度	
	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数
千種区	1回	78人	1回	50人
東 区	3	292	3	118
北 区	1	95	1	100
西 区	2	450	2	550
中村区	1	40	1	130
中 区	1	21	1	30
昭和区	1	252	1	162
瑞穂区	1	28	1	30
熱田区	1	32	1	13
中川区	2	220	6	692
港 区	1	20	1	35
南 区	3	510	1	160
守山区	1	102	1	400
緑 区	1	461	1	170
名東区	1	120	1	100
天白区	1	1,069	1	48
合 計	22	3,790	24	2,788

10 感震ブレイカー設置助成に係る実績の推移について

区 分	令和元年度	(参考) 平成30年度 (住宅都市局)
予算件数	580 件	100 件
木造住宅密集地域	100	100
その他	480	—
実績件数	316 件	133 件
木造住宅密集地域	58	133
その他	258	—
予算現額	16,480,000 円	2,800,000 円
木造住宅密集地域	4,000,000	2,800,000
その他	12,480,000	—
決算額	5,954,700 円	2,449,100 円
木造住宅密集地域	419,700	2,449,100
その他	5,535,000	—

(注) 予算現額及び決算額については広報経費等を除く。

11 東日本大震災における被災地への職員派遣について

(1) 年間を通じた派遣

区 分	職 務 内 容	人 数	派 遣 元
陸前高田市	防 災 関 係 業 務	1 ^人	防 災 危 機 管 理 局
	産 業 労 働 事 務	1	市 民 経 済 局
	道 路 等 復 旧 業 務	1	緑 政 土 木 局
	復 興 計 画 推 進	4	住 宅 都 市 局 緑 政 土 木 局
	学 校 建 設 の 施 工 管 理 等	2	住 宅 都 市 局 教 育 委 員 会
	水 道 整 備 関 係 業 務	1	上 下 水 道 局
気 仙 沼 市	下 水 道 復 旧 業 務	1	
合 計		11	—

(2) 短期派遣

区 分	職 務 内 容	人 数	派 遣 元
陸前高田市	市 民 税 業 務	2 ^人	財 政 局

(注) 短期派遣は令和2年1月7日～3月18日

12 東日本大震災の被災地支援に係る還元の取り組みについて

(1) 市民向け

ア 被災地派遣職員による講演会

区 分	実 績
実施回数	36回
参加人数	3,454人

イ パネル展示等各種広報

- ・市公式ウェブサイトへの派遣職員レポートの掲載
- ・港防災センターにおけるパネル常設展示
- ・防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2019等各種行事におけるパネル展示 等

(2) 職員向け

ア 被災地派遣職員による報告会

区 分	実 績
実施時期	令和元年9月4日
会 場	中区役所ホール
参加人数	279人

イ 庁内イントラネットへの被災地支援に関する情報の掲載

13 陸前高田市及び気仙沼市への人的支援等に係る被災地域
支援費の執行状況について

区 分	内 容	決 算 額
職 員 派 遣	職務に精通した職員を派遣し、陸前高田市及び気仙沼市の復興を支援	円 13,413,883
産 業 支 援	陸前高田産品の販路開拓を図るなど、現地企業を支援	3,281,237
医 療 支 援	看護の中核的人材の育成を図るなど、陸前高田市の地域医療を支援	840,000
交 流 支 援	イベントにおける郷土芸能の披露や名古屋市及び陸前高田市市民交流補助金の交付など、友好都市協定に基づく陸前高田市との交流を推進	530,000
報 告 会 等	被災地の現状、震災の教訓等を伝える派遣職員による講演会などを実施	765,739
合 計		18,830,859